

## 第22回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成28年11月17日(木) 10:00~12:00
会 場	市役所本庁舎2階 会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、天羽浩委員、谷本雄司委員、武者加苗委員、桂裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	【企画財政部】中屋直部長、川村裕樹次長 【企画課】橋本課長、柴主査、佐々木主任、安井主任

### 1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していること」を確認した。

### 2. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、武者委員を第22回総合計画推進委員会会議録の署名委員とした旨提案があり、了承された。

### 3. 議事

【議案1】重点プロジェクトに掲げる事業の進行管理について  
(2. にぎわい・魅力づくりプロジェクト)  
事務局より各種事業の概要について説明

<重点プロジェクトに掲げる事業の進行管理について>

#### ○B委員

北広島団地ツアーの参加人数は。また、その成果については。

#### ○事務局

ツアーは2回実施しており、合計で6家族22名の参加があった。

最終的には定住に結びついてくれたら良いが、まず北広島団地に興味のある方たちに団地の良さを感じてもらいたいという取り組みであって、参加者からいただいた色々な意見を、今後の参考にしていきたい。なお、参加者は全員札幌市民である。

#### ○B委員

団地のネーミングについて、エルフィンタウンとは市全体を指すのか。どこか特定の地域を指すのか。

また、団地のネーミングに使えないのか。

#### ○事務局

地域として特に決まっている名前ではない。団地においても使えるとは思う。

#### ○D委員

シティセールス事業について、もう少し対外的な発信を行ってはどうか。

また、おためし移住は好評なようだが、空き家バンクなどを活用してもっと発信してはどうか。

## 第22回北広島市総合計画推進委員会 会議録

### ○事務局

今回の団地ツアーについては、テレビでも取り上げられ、これを広告費に換算すると約600万円になる。ただ、毎回このような発信ができるわけではないので、スマートフォンなどを上手く活用した情報発信を考えていかなければならないと考えている。

おためし移住での空き家バンクの活用は、空き家は個人所有のためなかなか難しいが、可能性の一つとして考慮はできる。

### ○C委員

エコミュージアム普及推進事業について、予算としても拡大傾向にあるが、どういう状況なのか。また、事業参加料はどの程度か。

### ○事務局

拡大した部分については案内表示板の設置等であり、今年度は案内表示板の原材料等を購入し、設置については29年度に行われる。

事業参加料としては、市民バスツアーで一人500円となっている。この事業に限らず参加してもらうものについては、受益者負担としている。

### ○C委員

29年度以降の予算では、大きく拡大することはないのか。

### ○事務局

現在はハード面の整備を行っており、それが終了すれば通常の運営となる。

### ○C委員

評価調書において、「現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法」とあるが、人口、税収が減る中、「現在の成果を落としつつ、それ以上にコストを削減」できたら、それは経済性として評価してもよいのでは。この評価の文言についてはどう考えるか。

### ○事務局

十分検討をしていきたい。

### ○A委員

シティセールス事業の目的は人口増加と密接にかかわってくると思うが、どの世代に増えて欲しいのかは評価上に記載はない。どのように考えているか。

## 第 2 2 回北広島市総合計画推進委員会 会議録

### ○事務局

まちづくりの方向としては、若い世代を増やしてまちの基盤を作るというところにあるが、評価調書自体の書き方が漠然としているので、わかりやすいように工夫したい。

### ○委員長

戦略としてどう人口を増やしていくのかというのは非常に重要であり、シティセールス事業はそのPR部分を担うと考えられる。ただ、色々な事業があってどういう成果が出ているのか全体像が見えない部分もある。この数年間、人口の増減等に関してどういう事業が効果的であったかなどを教えていただきたい。

### ○事務局

人口ビジョンにおいては、若い世代の転出の割合が高い、出生率が低いという結果になっている。市では人口ビジョンの策定前から人口増加に対する取り組みを行っており、平成26年には社会増ともなった。ファーストマイホーム支援事業など定住に関する事業については、一定の効果があつたと認識している。

出生率についてはすぐに効果は出ないが、不妊治療の助成や妊婦の健康診査通院費の助成など色々な方面から支援を行っている。

教育施策、定住施策、まちづくり施策などを一体となって進めることで、若い世代が団地地区に住んでいただけるようなイメージを持って、取り組みを進めていく。

### ○B委員

おためし移住の倍率はどれくらいか。また、滞在日数はどの程度か。

### ○事務局

時期にもよるが、7、8、9月は2戸に対して10組程度の応募がある。

1か月程度の滞在が多い。

### ○B委員

大学連携推進事業において、道都大学とはどのような連携をしているのか。

### ○事務局

企画課所管では、学生の自主的な活動への支援、軽音フェス、その他ではハザードマップの作製に携わったりしている。

### ○B委員

北広島に住んでいる道都大学の学生は増える傾向にあるか。

## 第 2 2 回北広島市総合計画推進委員会 会議録

### ○事務局

学生の半分以上は市内に住んでいるが、住民票を移していない学生も多いので、住民票を移していただけるよう、3万円の引っ越し費用補助も行っている。

### ○B委員

レンタルサイクル事業において、利用者の属性は。

### ○事務局

平成 27 年度の実績は、利用者総数 735 人で、うち駅東口は 298 人、自転車の駅は 437 人である。

また、地区別利用者数は、駅東口は、団地 57 人、東部 24 人、西の里 3 人、大曲・輪厚 8 人、札幌 76 人、その他 130 人で、自転車の駅は、団地 26 人、東部 23 人、西の里 19 人、大曲・輪厚 69 人、札幌 196 人、その他 104 人となっている。

さらに年齢別利用者数は、駅東口は、0～18 歳 43 人、19～40 歳 96 人、41～60 歳 110 人、61 歳以上 49 人で、自転車の駅は、0～18 歳 91 人、19～40 歳 92 人、41～60 歳 169 人、61 歳以上 85 人となっている。

### ○D委員

(仮称)東京きたひろしま会設立事業において、現在の状況は。

### ○事務局

商工会、工業振興会、市内の高校、大学などに話をし、30 人近い方に賛同をいただいている。今年度は発起人会の準備会を開催し、市の取り組みなどを紹介して、来年度の発足につなげていきたいと考えている。

### ○A委員

駅周辺まちづくり事業について、JR 上野幌駅周辺についての取り組みは。

### ○事務局

総合計画に記しているとおり、交通の利便性を生かし商業・業務施設等の立地を図っていく。

### ○C委員

グリーンツーリズムや六次産業化事業は関連する事業だと思うが、一つの事業にまとめず、それぞれ事業化している理由は。

### ○事務局

六次産業化については総合戦略の中で掲げた事業ということで分かれている。事業の統合等については今後検討していきたい。

## 第22回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

○C委員

食育推進事業の予算が拡大しているが、その要因は。

○事務局

食育基本計画の作成委託費の増加によるものである。

○B委員

企業誘致推進事業において、これから誘致する場合を考えた場合、現在どういった土地が空いているなど、次にどうするかを考えているか。

○事務局

今後議論していく。

○B委員

日ハム誘致の状況は。

○事務局

動きが出たら報告する。

○A委員

企業誘致推進事業において、29年度、30年度の予算が28年度と比べ倍になっているが、その要因は。

○事務局

市民を雇用した企業に助成を行っており、雇用人数が増えることによるものである。

○D委員

起業支援促進事業において、個人事業者なども対象となるのか。

○事務局

個人事業者も対象である。なお、今年度は1件の申請があった。

○D委員

在宅で起業する方たちへの支援はどうか。

○事務局

今後の議論になっていく。

## 第 2 2 回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

○B委員

大学連携事業において、道都大学の定員割れにならないようなサポートを行えば人口増加につながると思うが。

○事務局

大学も確保に向け動いているようで、市として引っ越し助成などをやり始めている。

4. その他（次回開催日程についてなど）

平成 28 年度 きたひろしま市民会議について

<事務局より手法等について説明>

5. 閉会

会議録署名委員

---